

## 🌟 配備される主な車両 🌟



救助工作車 rescue engine

救助隊の通称である「レスキュー隊」が使用することから、「レスキュー車」とも呼ばれ、さまざまな救助に対応できる多数の救助資機材を搭載し現場へ急行する車両。主にウインチや照明装置、クレーンなど高度救助用資機材を装備し、除染シャワーなどのテロ対策用特殊救助資機材も搭載しています。前面にウインチを装備するため、バンパーが他の消防車よりも大きく張り出しているのが特徴です。

化学消防車 chemical fire engine

水による消火が困難、不可能な重大な危険物火災に対応するための車両で、「化学車」とも呼ばれています。油脂や化学物質が原因の火災の場合、水をかけると逆に火の勢いが強くなってしまうため、効果がある泡消火剤や粉末消火剤を撒くための装備を搭載。この車両には、さらに特殊な「圧縮空気泡消火システム（CAFS：キャプス）」を装備し、圧倒的な消火力を発揮することができます。



高規格救急車 high-standard ambulance

国内で現在主力の救急自動車で、一般の救急車よりも高度な救急医療が可能。救急救命士が搭乗し、心肺停止など症状が重い患者に医療行為を行うことができる高度救命資器材を搭載。農村地域における交通事故被害者などの救急搬送に役立ててもらいたいと、全国共済農業協同組合連合会静岡県本部とハイナン農業協同組合から車体を寄贈していただき、市で装備品の装着などを施しました。

査察車 surveillance vehicle

主に、火災原因の調査や事業所などへの立ち入り検査などに用いられる車両。調査や指導などに必要なカメラや計測機器などの資機材を搭載しています。災害時などさまざまな状況に応じて迅速に対応できるように機動性がある四輪駆動車で、市内に工場があるスズキ株式会社から、「市の安全安心のために協力したい」と奇贈していただきました。



4月1日に運用を開始する市相良消防本部



## 地域の防災拠点が始動

消防救急業務の広域化に伴い整備を進めていた牧之原市相良消防本部は、昨年12月に庁舎の建設工事が完了し、これまでの御前崎市消防本部から業務を引き継ぎ、4月1日から業務を開始します。庁舎の施設の一部や主な車両を紹介します。

問い合わせ 防災課 広域消防整備室 今村 ☎0058

牧之原市相良消防本部は4月1日から、49人の職員体制で相良地区の消防救急業務を開始します。同消防本部は、現在進めている消防広域化に伴う相良地区の安全安心を確保するために整備されました。緊急車両の現場への平均到達時間を短縮するために、建設場所は、相良地域を縦断する国道473号バイパス大沢インター1チェンジ付近を選定。東日本大震災の津波被害を基に海抜14mに建設しました。敷地面積は約1万5063㎡。建物は鉄筋コンクリート造り2階建てで、庁舎や車庫棟、訓練棟などの合計床面積は約2706㎡です。消防本部には、御前崎市消防本部から引き継いだ車両を含め、消防車や救急車など12台の車両が配備され、火災だけでなく各種災害にも対応が可能です。東日本大震災を教訓に、巨大地震にも耐えられる耐震構造の庁舎には、屋上への避難階段を設置した他、7日間連続運転が可能な非常用自家発電装置、多目的に利用可能な車庫などを整備しました。今後は、地域の防災拠点として、皆さんの生命財産を守る役割を担っていきます。

## 施設紹介



訓練棟・訓練施設

隊員の日々の訓練のために、さまざまな状況を再現可能な訓練棟を設置。訓練棟周辺には、消防団員が夜間でも訓練可能な照明設備や水利を用意しました。



非常用自家発電装置

災害時に電源が断たれた場合を考え、自家発電設備を配備し、通信や照明など予備電源を確保。東日本大震災を教訓に、168時間（7日間）の連続運転が可能です。



車庫

1秒でも早く、現地へ出動できるように、前面だけでなく背面にも開口部を設け、どの車両も即時に出動が可能。大規模災害発生時に多目的スペースとしても利用可能。



防火衣室(出動準備室)

車庫に隣接する防火衣室(出動準備室)を中心に、隊員が出動時に最短時間で出動可能な勤務を確保しました。ロッカー1台で2人分の準備が可能です。



通信指令台

年々増えている携帯電話からの119番通報にも対応し、固定電話や携帯電話の発信位置を瞬時に表示できるシステムを配備。緊急車両の現場到達時間を短縮します。



庁舎1階事務室

消防本部事務室と消防署事務室が隣接することで、ミーティングルームなどを共有可能に。限られた面積を有効利用できるスペースを確保しました。